

# 『自主的な態度を育成するピア・サポート活動』

藤枝市立大洲中学校

## 1 ピア・サポート活動年間プログラム

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事		プログラム	職員研修
4月	1年生を迎える会 体育大会団決め式 縦割校歌指導・縦割体操指導	出 会 い の ス テ ー ジ	生徒会長歓迎の言葉、執行部紹介、部活動紹介、レクリエーション、2・3年生の合唱披露。団長紹介、くじ引きによる団決め・色決め、団ごとの活動により他学年との関わりを持つ。	ピア・サポート担当と特別活動主任で今年度の活動を検討
5月	縦割あいさつ運動 PSL活動			分掌部会でピア・サポート研修
6月	小学生への読み聞かせボランティア 縦割り合唱交流 テスト前教え合い学習会	挑 戦 の ス テ ー ジ	小学生に読み聞かせを行う。縦割りで合唱活動を行う。縦割り、学級での教え合い。 小中連携しあいさつ運動を行う。異学年集団で行事に取り組む意味を確認し合う。	ピア・サポート研修会の報告
7月	小中合同あいさつ運動 体育大会種目説明会・結団式 生徒会選挙			小中合同研修会で小中のピア・サポート活動を接続する
8月			【PSL活動】生徒同士で集団を高め合っていく活動。リーダーたちが困っている生徒に声かけやサポートをしていく。	ピア・サポート研修会の報告
9月	体育大会	共 生 の ス テ ー ジ	縦割り集団の中で仲間との絆を深め、学校全体がより良い方向へ向かうよう努める。 体育大会でつくった絆をもとに、合唱交流を通してさらに強める。地域のために自ら貢献していく姿勢を養う。	
10月	文化発表会 (小6を招待し、中3の合唱を鑑賞させる) 特養老人ホームボランティア 大洲ふれあいｽｰｯの集いボランティア			ピア・サポート担当と後期生徒会担当で後期の活動の検討
11月	生徒大会 2年福祉交流 大洲ふれあい祭りボランティア	夢 実 現 の ス テ ー ジ	様々な障害を抱えた方と関わり、サポートのあり方を学ぶ。 生徒会主催により、3学年合同で行う。	ピア・サポート研修会の報告
12月	小学生への読み聞かせボランティア フリースロー大会			
1月	ステージ集会	自 立 と 感 謝 の ス テ ー ジ	ステージ集会では縦割りで将来の夢について話し合う。	
2月	ファイナルコンサート		学年合唱を通して各学年の成長を認め合い、次年度につなげる。	ピア・サポート研修会の報告
3月	3年生を送る会 団の感謝式		生徒会を中心に、3年生への感謝の気持ちを形にする催しを考え、実行する。	

## 2 本校のピア・サポート活動の紹介

### 職員の共通理解と推進組織（提言 1、2、3）

大洲中学校のピア・サポート活動を共通理解するために、年度当初の職員会議では全体像を説明し、各ステージの職員会議では特別活動部の提案の中に、各活動、各行事におけるピア・サポートの視点を提示して、活動内容やねらいを職員の間で共通理解を図った。

担当が1人で提案と実行をするのではなく、特別活動主任や生徒会担当が連絡・調整をしながら活動を進める体制を作った。また、ベテラン職員からの助言を生かしたり、若手職員を巻き込んで活動をしたりすることで、ピア・サポートの理解を深めるようにした。

【第1ステージの主なピア・サポート活動】	
活動内容	ねらい
学活 ・学級開き・学級組織決定 ・学級目標づくり	生徒1人1人に新学級における役割をきちんと持たせること、安心して生活できる環境やルールをつくることをとおして、生徒1人1人の所属感を高めていく
1年生を迎える会 ・生徒会活動の紹介 ・レクレーション 縦割り活動の集団決め 結団式	異年齢交流、下級生へのサポートを意図的に取り入れていく、2、3年生は先輩として下級生を支えていく自覚を育てていく。大洲中の縦割り活動の理解と協力する姿勢を育てる。
校歌指導	先輩として後輩へのサポート、先輩への憧れと歌おう活動への意欲向上。
PSL 活動	仲間関係の活性化と、仲間を大切にしたい気持ちを基盤に小グループ運営を図る。
3自働活動 ・中央委員会	生徒たちが自発的に3自働への意識を向上させようと学校全体で取り組むことで、愛校心と公徳心を共有する。

→ PSL 活動について（ピア・サポート・リーダー活動）

ねらい

- ・仲間同士がお互いのことを大切に考え、支え合いながら生活できる。
- ・仲間の変化に気づき、相談のつたり、担任に報告にいたりできる。
- ・生徒たちが自分たちの学級集団をより良くするために、代議員と班長で連携することができる。

### 縦割り集団活動のつながり（提言 4）

1年生を迎える会では、生徒会本部と執行部長が劇形式で「大洲中の1日」を紹介した。中学校生活をイメージできずに不安に思っている1年生へのサポートとなった。1学期には、縦割り団活動を合唱やあいさつ運動など多くの活動に結びつけて実施した。生徒会が行っているペットボトルキャップ回収も団ごとで競い合う形で年間を通して実施した。

行事や生徒会で柱にしている活動を縦割り集団で行うことで、それぞれの活動が“点”ではなく“線”でつながるような意図的・計画的な展開にすることができた。

### PSL 活動（提言 5、6、7）

「ピア・サポート・リーダー活動」の略称で、平成28年度から取り組んでいる生徒会本部が主催している。学校生活における最小の集団である班での活動に目を向け、生徒会担当と本部役員が活動内容を考え、班長を「ピア・サポート・リーダー」としてサブリーダーを育成する活動である。活動内容は、どんな学級が良い学級か話し合い、その姿になるには P S L としてどんなことができるか検討し、期間を決めて実践を行った。



具体的には、①授業開始1分前に準備を整えて着席している②仲間の呼びかけに応じて行動できる③発表・発言が積極的に行えることが目標とする姿に挙げた。そのために、PSLは①3分前から呼びかけをする②呼びかけを聞いてもらうために、あいさつからコミュニケーションを大切にして積極的に働きかける③自らが模範となり発表・発言を積極的に行う、という活動に取り組んだ。本部役員とPSLの話し合い・検討、振り返りの活動は、昼休みに集まって行った。振り返りは、活動期間中にPSLがチェックするシートを用意し、そのシートをもとに、班や学級がどう変わったか記入させた。



生徒たちの取り組みの価値付けは、各学級を主な場面とし、担任の先生がP S Lとの話し合いを設けて、振り返りをもとに取り組みを認める場とした。学級通信でP S Lの努力を「見える化」して認めてくれる先生もいた。振り返りを大切にすることで、担任の先生だけでなくP S Lの中からも課題が見つかるので、担任の先生とともに学級の活性化や改善に向けて考える活動にもなった。

#### 家庭や地域に積極的にアピールする(提言8)

地域や保護者に生徒のよさやがんばりを知ってもらうために、学級通信や学校だよりを通して、各家庭や地域の方に生徒の活動を紹介した。学校内でピア・サポート活動に取り組んでいるからか、地域のボランティアに積極的に参加する生徒が多い。そのため、学校外の活動でもピア・サポートの精神をもって生徒が活動できている。

### 3 本年度の成果と課題

#### ○成果

- ・ふじえだ型ピア・サポートの視点に沿って生徒会活動及び特別活動を進めていくことで、生徒にピア・サポートの精神が根つき、学校の文化としても定着、継承されている。
- ・意図的にピア・サポート・リーダーを育成し、学級内で活動させることで、学級内の雰囲気がよくなり、学級活動や人間関係づくりにプラスの影響を与えることができた。
- ・昨年度からの流れを受け、P S L活動の内容を、生徒の視点で必要な活動を考えて実践していくことができた。そのことにより、生徒による主体的な活動となり、P S Lが班や学級をよく見て自発的に考え動く自治的な活動ができた。
- ・学校の文化としてもピア・サポートの精神が根づいているため、生徒会のスローガンにもピア・サポートが盛り込まれている。また、道徳の授業の感想にもピア・サポートの言葉を書く生徒が出てきた。

#### ●課題

- ・活動する時間を確保することが難しい。P S L活動の説明や話し合い、振り返りを昼休みに設定したが、他の活動と重なることや、十分な時間がないことが生徒にとって多忙な状態になってしまった。また、実施期間を1, 2週間程度としたので、行事や日課との調整で苦勞した。
- ・P S L活動の価値付けが学級ごとになるので、学級によって差が出てしまうことがあった。担任だけではなく全職員で確実に見届けていくことが必要である。
- ・生徒たちで活動を考えることは、時間と労力がかかる。また、うまくいかない部分もでてくるため、失敗から学ばせる教員側の姿勢とそのための時間が必要となる。生徒の意識がP S L活動の実施期間のみにならないように継続させていく働きかけがあるとよい。

### 4 来年度に向けて

これまで続いてきたピア・サポート活動を継続し、よりよい活動にしていくために、職員のピア・サポートに関する共通理解を深めていく必要がある。特に、若手教員は研修などの機会学び、学級内で実践していくことに取り組みたい。P S L活動の効果を高めるためには、学級内での教師の力量が必要である。どの学級でもさらに効果的な活動にするため、引き続き、組織的な推進で共通理解を図っていききたい。

活動内容もさらなる深化にむけて、P S Lの育成だけでなく、フォロワー側にも働きかけ、フォロワーのスキルアップ、育成にも取り組んでいく必要がある。

時間の確保が厳しい活動もあるが、教育課程や行事などの関連を考え、ピア・サポート活動を計画的に実施していきたい。